

令和元年度決算の状況

資料1-2

※公営企業決算統計ベース

◇収益的収支

(単位:百万円)

区分		年度	30年度(決算)	元年度(決算)	H30→R1増減	2年度(予算)
収入	1. 医業収益	a	15,398	15,790	392	16,230
	(1) 入院収益		10,962	10,915	▲ 47	11,159
	(2) 外来収益		3,275	3,708	433	3,869
	(3) その他		1,161	1,167	6	1,202
	うち他会計負担金		961	963	2	964
	2. 医業外収益		1,392	1,441	49	1,531
	(1) 他会計負担金・補助金		997	1,047	50	1,135
	(2) 国(県)補助金		63	65	2	61
	(3) その他		332	329	▲ 3	335
	経常収益	(A)	16,790	17,231	441	17,761
支出	1. 医業費用	b	17,284	17,483	199	18,261
	(1) 職員給与費	c	8,823	8,809	▲ 14	9,803
	(2) 材料費		3,463	3,638	175	4,029
	(3) 経費		3,267	3,306	39	2,981
	(4) 減価償却費		1,648	1,635	▲ 13	1,355
	(5) その他		83	95	12	93
	2. 医業外費用		808	885	77	864
	(1) 支払利息		271	267	▲ 4	260
	(2) その他		537	618	81	604
	経常費用	(B)	18,092	18,368	276	19,125
経常損益 (A)-(B)		(C)	▲ 1,302	▲ 1,137	165	▲ 1,364
特別損益	1. 特別利益	(D)	1	1	0	280
	2. 特別損失	(E)	135	193	58	379
	特別損益 (D)-(E)	(F)	▲ 134	▲ 192	▲ 58	▲ 99
純損益 (C)+(F)			▲ 1,436	▲ 1,329	107	▲ 1,463
累積欠損金			▲ 8,626	▲ 9,955	▲ 1,329	▲ 11,418
現金預金			2,367	2,401	34	2,365
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$			92.8	93.8	1.0	92.9
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$			89.1	90.3	1.2	88.9
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$			57.3	55.8	▲ 1.5	60.4

○令和元年度決算は、前年度と比較して入院収益が若干減少したが、外来収益が大幅に増加したため、経常収益全体でも4.4億円の増となった。一方、材料費や経費が増加したことにより、経常損益は前年度比で1.6億円の改善に留まった。

○純損益は13.3億円の赤字となり、前年度よりも1億円程度改善した。

◇資本的収支

(単位:百万円)

区分	年度	30年度(決算)	元年度(決算)	H30→R1増減	2年度(予算)
収	1. 企業債	179	193	14	496
	2. 他会計出資金	803	815	12	673
	3. 他会計負担金	20	20	0	20
	4. その他	0	0	0	0
入	収入計 (A)	1,002	1,028	26	1,189
支	1. 建設改良費	210	270	60	517
	2. 企業債償還金	1,421	1,344	▲ 77	984
出	支出計 (B)	1,631	1,614	▲ 17	1,501
	差引不足額 (A)-(B) (C)	▲ 629	▲ 586	43	▲ 312

◇一般会計からの繰入金

(単位:百万円)

	30年度(決算)	元年度(決算)	H30→R1増減	2年度(予算)
収益的収支	1,958	2,010	52	2,099
資本的収支	823	835	12	693
合計	2,781	2,845	64	2,792

◇正職員数

(単位:人)

	30年度 (3/31時点)	元年度 (3/31時点)	H30→R1増減	2年度 (4/1時点)
医師	113	113	0	118
看護師	589	575	▲ 14	584
医療技術職	110	114	4	118
事務・技術・技能職	66	66	0	65
合計	878	868	▲ 10	885

○資本的収支においては、企業債及び他会計出資金による収入が前年度よりも増加したため、不足額は前年度よりも改善した。

○一般会計からの繰入金については、前年度と比較し増加した。

○職員数については、年度途中の退職者の増などにより前年度と比較して減少した。